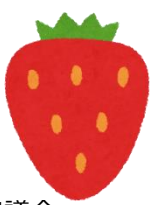




令和4年度 福祉教育推進リーダー養成研修会を 開催しました！



発行：栃木県社会福祉協議会
(令和4年10月)



福祉教育のねらい&取組事例

- ・「自分の大切さとともに他人の大切さを認めること」ができるようになること
- ・共生社会での「生きる」あり方について考える
- ・ねらいとめあてをしっかりと。
- ・メタ認知※を育成しよう。(吉田先生)

・わたしもあなたもすべての人が福祉教育の対象です。“自分事”として考えられるプログラムに変えました。・社福法人、企業との協同で視点や意識が深まる。(栃木市社協 菅沼さん)

・「社協のこと知らなかった」という声。多くの人に知ってもらわなければ、これも福祉教育のひとつ地道な広報の結果、企業から活動の相談が来た。協同の第一歩。(芳賀町社協 高津戸さん)

※メタ認知...自分の思考や行動を、客観的に把握し認識すること



いつも思いつかないのに、どんどんアイデアが広がります！

広報に使用する印刷物も印刷企業との協同連携でばっちりですね！



施設に入所したら何もできない！？入所者が福祉教育の担い手になる。発想の転換！

プログラムの対象者だけでなく、リフレクションの仕方でも、幅広い対象に福祉教育の機会をつくれるんだ。





* 1グループ

プログラム 1日配達員体験～地域を笑顔に～
グループメンバー（所属）

・とちぎコープ・鹿沼市社協・真岡市社協・茂木町社協・那須町社協

* 受講者の感想

とちぎコープでは、ユニバーサル就労に取組んでいる。企業の視点だけでは、福祉的な視点が弱い。社協と連携して取組むことで強化される。是非とも実践したい。

普段では、“社協が何をしているところかわからない”企業側としては、社協からのアプローチを待っている。是非来てほしい。



* 2グループ

プログラム みんなでつくろう！青空農園
グループメンバー（所属）

・社会福祉法人すぎのこ会・協永堂印刷㈱・真岡市社協・茂木町社協・栃木市社協

* 受講者の感想

・企業から参加したが、今後も地域に関わっていきたくと思った。芳賀町社協との協同事業（オリジナルノートづくり）を実現したい。

・社会福祉法人から参加。公益的な取り組みを意識している。知的障害、発達障害の理解啓発のための「心のバリアフリー冊子」をつくった。社協と連携してできることが広がったと実感している。社福だけではノウハウが無いので、今後も社協と連携していきたい。



* 3グループ

プログラム 認知症・高齢者理解
グループメンバー（所属）

・社会福祉法人大恵会・協永堂印刷㈱・ふくし共育ボランティアグループささえ・大田原市社協・壬生町社協・芳賀町社協

* 受講者の感想

・社会福祉法人からの参加。コロナ前は、小・中学生の受け入れをしていたので、福祉教育の機会は多くある。利用者も大喜びで、子どもたちと接したい、お世話したいとはりきる。一方で、施設職員によっては、福祉教育の意識や関心が薄いように感じる。今日の研修内容を法人に持ち帰って、共有したい。

・企業からの参加。企業社員向けの営業研修に内容が通じるといった。今後も社協と連携して取組んでいきたい。今日は、昇明社を覚えて帰る！

・ボランティアグループから参加。所属している社協では、9つの福祉教育プログラムを展開している。今日作ったプログラムを10番目のプログラムとして実践したい。



* 4グループ

プログラム ふくしのまちなかたんけんたい
グループメンバー（所属）

・NHK宇都宮放送局・鹿沼市社協・上三川町社協・野木町社協

* 受講者の感想

・NHKから参加。NHKでは、回想法ライブラリーや地域づくりアーカイブなどのコンテンツを用意している。その他、障害者のための防災サイトを開設し、防災活動も行っている。社協の皆様と各地域の課題や取り組みについてじっくりお話（演習）できる機会はこれまであまりなかったので、大変勉強になりました。